

～笑顔と夢に溢れ地域と共に歩む学校～

せんだん



H P

2 年中村あやねさん



千代田西部小学校

R3 年度 第 37 号

令和 4 年 2 月 2 日

文責 校長 田中裕子

習慣が自分を变えていく

子ども達の様子を可能な限り見て回っていますが、ある日、6年生の教室で見かけたのは、机の上に置かれた手のひらサイズの国語辞典でした。どんな時に使っているのかなとちょっと見てみると、わからない漢字があった時にさっと手に取り調べていました。中の字はかなり小さく、高学年しか読めない大人用かもしれませんが、漢字の確認やちょっと意味を調べる程度には十分だと思いました。電子辞書もありますが、やはりこの手に取って自分で調べるという手間を惜しまないことが、記憶に残ることにつながるのではと思いました。

本校では辞書の購入は家庭に一任していますが、学校によっては自分用の辞書を購入するようになってきているところもあります。手元に辞書の習慣は、漢字だけでなく語彙の広がりや正確な言葉の習得にもつながるので必需品です。中学校ではさらに必要となる習慣だと感じました。

また、2年生の西部つ子ニュースを読んでいると、漢字の練習をがんばっているという内容がありました。そこには、すでに6年生の漢字を練習していると書かれており、理由として早くいろいろな漢字が読めるようになりたいからということでした。漢字は習得する学年が決められてはいますが、早く読み書きするに越したことはありません。漢字を適切に使えることは国語の力に直結します。こちらにもまた良い習慣だと思いました。

どちらの例も小さなことかもしれませんが、しかしながら、「小さな事を積み重ねることがとんでもないところへ行くただ一つの道」という有名なイチローの言葉のように、どのような習慣を自分のものにするかで、未来がぐっと開けるような気がします。

挨拶は「心を拓く」という意味もあり、学校としても大変力を入れています。校門や交通立番に毎日立ってくださっている方への挨拶はまだ合格点があげられません。

そのような中、最近「立ち止まって礼」をする子ども達を見かけるようになりました。3年生が特にがんばっているようです。また、「遠くから挨拶」も見られるようになりました。どちらも相手への思いが表れています。

まだ小さな芽かもしれませんが、この流れが大きくなり、西部小に定着してくれたらと思います。そのために、まずは大人も子ども達の範とならねばと、こちらの気持ちにも変化を起こしてくれています。

見守り隊の皆様にも、挨拶をほめられるレベルになることが目標です。学校評価アンケートでも挨拶の数値がよくなかったようです。学校だけでなく、ご家庭でもお声かけくださいますようお願いいたします。



劇団『仲間』様が東京から来校

挨拶ボランティアさんも寒い中、校門に立ってくれています。有り難う！！シールも増えています★

「小さい『つ』が消えた日」を上演してくださいました。いつもの体育館ステージが舞台に変身。子ども達はお話の世界に入り込んでいました。

最後の挨拶は6年生の田原さん、5年生の中村さんと早田さん、このような機会をもてたことに感謝の言葉を伝えてくれました。今回は文化庁の主催で実現しました。このような時期に開催できたことをとても喜ばれていました。鑑賞後、感動のあまり涙が出たという子ども達もいたようです。素晴らしい感性です！



日頃お世話になっている方に色紙を作成しました。6年生が仕上げで渡せる状態になっています。直接お渡し出来ないことが残念でありません。来週からお配りする予定です。

